

美坂高原を星空保護区®に

日本ではまだ認定されている地域が少ない「星空保護区」に、三島町は東北地方では初の認定を目指します。町では、美坂高原の星空を観光資源として活用し、地域活性化に向けたブランド化を図り、「星空保護区」認定と受入体制整備を推進してまいります。

星空保護区とは

「暗い自然の夜空」＝「美しい星空」の保全を世界基準で評価する国際的な認定制度です。ダークスカイ・インターナショナル(旧:国際ダークスカイ協会)が、光害の影響のない、暗く美しい夜空を保護・保存する優れた取り組みを行っている地域を「International Dark Sky Places = 星空保護区」として認定しています。

認定には、屋外照明に関する厳格な基準のクリア、暗い夜空を保護する地域の取り組み、人々(ビジター含む)がその夜空を体験できる環境整備などが求められます。



ダークスカイ・インターナショナルは、世界の天文学者・環境学者らを中心に光害問題に取り組む世界最大のNPO団体です。1988年に設立され、米国アリゾナ州にある本部と、世界24カ国81支部を有します。

国内では、下記5つのカテゴリ全ての認定地を総称して、「星空保護区」と表記しています。

ダークスカイ・コミュニティ
International Dark Sky Communities

ダークスカイ・パーク
International Dark Sky Parks

ダークスカイ・リザーブ
International Dark Sky Reserves

ダークスカイ・サンクチュアリ
International Dark Sky Sanctuaries

屋外照明が整備され、
ダークスカイプログラムが提供されている
公営または民営の保全地域。

アーバン・ナイトスカイプレイス
Urban Night Sky Places

三島町 美坂高原は「ダークスカイ・パーク」の認定を目指しています。

三島町 美坂高原基本情報

三島町の観光施設「美坂高原」は標高600mに位置する広大な高原です。開放的で美しい自然風景に加え、日中は草原の上でのデイキャンプやバーベキューなど、また、夜間はイベント時のキャンプ利用や星空観望を楽しむことができます。冬期間(12月~4月)は閉園となります。



三島町では、美坂高原の様々な情報をSNSを通じて発信しています。

フェイスブック▶



インスタグラム▶



三島町への交通のご案内(美坂高原へは車でお越しください)

車をご利用の場合

東京 ⇒ 東北自動車道で約150分 ⇒ 郡山JCT ⇒
磐越自動車道で約45分 ⇒ 会津坂下IC ⇒ 国道252号で約20分 ⇒ 三島町

公共交通機関をご利用の場合

東京 ⇒ 東北新幹線で約85分 ⇒ 郡山 ⇒ JR磐越西線で約65分 ⇒
会津若松 ⇒ JR只見線で約90分 ⇒ 会津宮下

お問い合わせ

三島町 地域政策課 〒969-7511 福島県大沼郡三島町大字宮下字宮下350
TEL:0241-48-5533 FAX:0241-48-5544

三島町観光ポータルサイト▶



写真撮影(表紙):フォトグラファー 猪俣 慎吾氏

※令和6年度福島県地域創生総合支援事業(サポート事業)補助金活用

「星空保護区®」は、一般社団法人星空保護推進機構(DPA)の登録商標です。

2024年11月発行



三島町
MISHIMA TOWN

美坂高原の美しい星空を守るために

美坂高原の星空について

人工の灯りが少なく、光害の少ない奥会津地域は、星空観望の適地として注目されています。中でも美坂高原は、非常に暗い夜空の環境を有する高原にあり、静かでゆったりとした時間と満天の星を楽しめます。町では、その「暗さ」を強みとして活用し、2022年より国立天文台上席教授の渡部潤一氏を講師とした「スターウォッチングツアー」や、星空と親和性の高いヨガを組み合わせた「星空ヨガ」などの星空観望イベントを開催しています。また、開放感のある広大な高原でのキャンプも人気であり、年々リピーターも増えています。

星空を守るために

この美しい星空を守るには、光害を正しく理解し、三島町全体で取り組む必要があります。

この暗い夜空=美しい星空は、守らなければ失われてしまう貴重な資源であり、地域の人々の誇るべき財産でもあります。また、この取り組みにより、三島町だけでなく奥会津という地域において、その暗さや星空の美しさが周知され、光害や星空保護区に関する認知が高まることが期待されます。そのためには、まず三島町の皆様に、「暗さ=星空の美しさ」といった地域資源に気付いていただき、町が一体となって光害に関する正しい知識により活動することが重要です。

ひかりがい 光害とは？

大気汚染、水質汚染、土壌汚染はよく知られていますが、人工の光も汚染物質となり得ることをご存知でしょうか？ 過剰で不適切な照明によってもたらされる光害は、星空を奪うだけでなく、地球環境に様々な悪影響を引き起こしています。



エネルギー浪費

無駄な照明により世界で年間約13兆円の電気代が浪費され、7.5億tのCO₂を排出している試算があります。



生態系への悪影響

多くの野生生物が人工光によって生態を乱され、特に渡り鳥、ウミガメ、蛾などは多数犠牲になっています。



農作物への悪影響

夜間照明が農作物の発育に影響し、等級低下、収穫量の減少などの被害が出る可能性があります。



人体への悪影響

夜間に光を浴び続けると、健康被害（不眠症、鬱病、癌など）に結びつくとの研究結果が数多くあります。

PHOTO CONTEST

ミサカノヨソラフォトコンテスト ー作品紹介ー

「美坂高原の美しい星空」をテーマとして2024年9月に開催し、三島町内及び福島県内外の方から全30作品の応募がありました。

最優秀賞



『真夏の夜の美坂高原』
丹治 美知夫さん

優秀賞



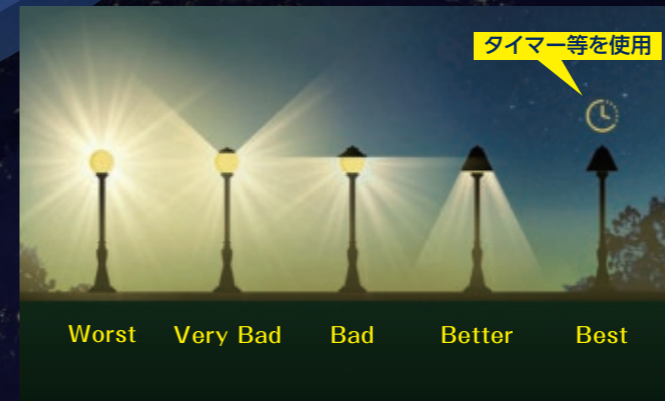
『オボンノゾラ』
山浦 智大さん

優秀賞



『秋霧の高原と銀河』
松浦 かおりさん

星空を守る暮らし



星空は、過剰で不適切な照明によって失われます。特に上方向に漏れる光は、私たちの生活に全く役に立たないばかりか、無駄にエネルギーを浪費し、美しい星空を奪います。つまり、星空は人々の手によって取り戻すことができるのです。屋外照明は、必要な場所に、必要な時に、必要な量だけ使用し、以下の対策も重要です。

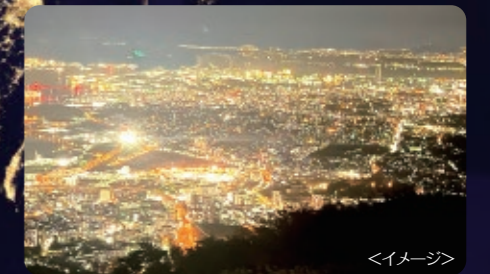
- 上方向に光を漏らさない
- 電球色(色温度3000K以下)を使用する
- タイマーや人感センサーを使用する

詳しくは、環境省「光害対策ガイドライン」をご参照ください。▶



光害は、日本ではあまり認知されていませんが、世界では欧米先進国を中心に大きな問題として捉えられ、星空保護の取り組みが活発になっています。その取り組みを世界基準で評価する認定制度が「星空保護区®」です。星空保護区が国内で存在感を示すことにより、明る過ぎる都市部に対して光害の問題を投げかけ、スマートでクリーンな街明かりのモデルを示すことができます。星空を守る暮らしは、地球を守る暮らしでもあるのです。

写真提供:NASA



<イメージ>